

W0.はじめに

W0.1

(W0.1) あなたの組織の概要および紹介文を記入してください。

株式会社マルマエは半導体やFPD製造装置の心臓部である真空パーツを製造しています。主な原材料であるアルミニウムを切削加工して、真空パーツに求められる高精度、高品質を実現し、受注を増加しており、

2022年では真空パーツのシェア 1 位（当社調べ）となりました。

本社は、鹿児島県出水市にあり、従業員は 従業員数324名 (2022年8月現在)、売上高は85.85億円(2022年8月現在)です。

地域セグメント売上高は、日本83.97億円(97.8%)、シンガポール2.13億円(2.1%)、アメリカ0.05億円(0.1%)です。

製造拠点は日本に 3 拠点あり、鹿児島県出水市に 2 拠点（出水事業所、高尾野事業所）と埼玉県朝霞市に 1 拠点（関東事業所）を有しています。

W0.2

(W0.2) データの報告年の開始日と終了日を入力してください。

	開始日	終了日
報告年	2021年9月1日	2022年8月31日

W0.3

(W0.3) 貴社が操業する国/地域を選択してください。

日本

W0.4

(W0.4) 回答全体を通じて財務情報の開示に使用する通貨を選択してください。

日本円(JPY)

W0.5

(W0.5) あなたの組織の事業への水の影響の報告にあたり、対象となる企業、事業体、グループの報告バウンダリ(境界)として最も当てはまるものを選択してください。
業務管理下にある企業、事業体、またはグループ

W0.6

(W0.6) このバウンダリで、本情報開示から除外される地域、施設、水に関する側面、その他の事項はありますか？

いいえ

W0.7

(W0.7) 貴社は、ISINコードまたはその他の一意の識別子(Ticker、CUSIPなど)を持っていますか。

貴社の固有IDを提示できるかどうかについて示してください。	貴社の固有IDを提示します
はい、ISINコードを持っている	JP3878150006

W1.現在の状況

W1.1

(W1.1) あなたの組織の事業成功のためには、水質と水量はどの程度重要ですか?(現在および将来の)重要度をお答えください。

	直接利用の重要度評価	間接利用の重要度評価	説明してください
十分な量の良質の淡水を利用できること	中立	さほど重要ではない	直接利用において、主な使用用途は、機械加工で金属を切削する際の冷却に用いる水溶性の切削液です。この切削液は、原液を約20倍に薄めて使用することから、水が95%を占めます。切削液は、加工時の冷却の他に、切削を潤滑にしたり、加工後の腐食を防止する目的もあり、製品の品質に影響するため、良質な淡水である必要はありますが、加工時に蒸発等で流出する量は多くないため、使用する水量は、全社で1日20トンと多くありません。 間接利用において、主な使用用途は日常的な手洗いです。 将来においても、製造量の増加に伴い、使用量が増加することが予想されますが、使用量が多くないため、水質と水量の重要度は中立としています。
十分な量のリサイクル水、汽水、随伴水を利用できること	さほど重要ではない	さほど重要ではない	出水事業所において敷地面積が70000㎡あり、地下水の水源に恵まれていることから、井戸水を利用しています。 直接利用において、主な使用用途は、工場設備の冷却のために使用しています。高温設備の冷却を目的としていますので、品質は重要視されません。 間接利用において、主な使用用途はトイレの下水として使用しており、こちらも品質はさほど重要視されません。 将来においても、製造設備を増加することで、使用量が増加することが予想されますが、必ず井戸水である必要はなく、水質と水量の重要度はさほど重要ではないとしています。

W1.2

(W1.2) 水に関する以下の側面について、あなたの組織の事業全体でどの程度の割合を定期的に測定・モニタリングしていますか?

	操業地/施設/事業の比率(%)	測定頻度	測定方法	説明してください
取水量 - 総量	100%	毎月	水道水は第三者から購入しており、購入量については毎月、施設毎にメーターと購入伝票を確認している。地下水については、汲み上げ量を、施設毎の吸水量メーターを毎月、確認している。	
取水量 - 水源別の量	100%	毎月	水道水は第三者から購入しており、購入量については毎月、施設毎にメーターと購入伝票を確認している。地下水については、汲み上げ量を、施設毎の吸水量メーターを毎月、確認している。	
金属・鉱業/石炭セクターでの貴社の活動に関連した混入水 - 合計量[金属・鉱業/石炭セクターのみ]	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>
貴社の石油・天然ガス事業活動に関連した随伴水 - 総量 [石油・ガスセクターのみ]	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>
取水の水質	100%	毎月	水道水は第三者から購入しておりは、供給元が毎月、モニターをしている。地下水については、pH値を確認し、pH調整を行っている。	
排水量 - 総量	モニタリングしなかった	<Not Applicable>	<Not Applicable>	排水について、使った水道水等の水量を汚水排水量とみなして算定しており、正確にモニタリングしておりません。
排水 - 放流先別排水量	モニタリングしなかった	<Not Applicable>	<Not Applicable>	排水について、放流先別の排水量は把握していません。
排水 - 処理方法別排水量	モニタリングしなかった	<Not Applicable>	<Not Applicable>	排水について、処理方法別の排水量は把握していません。
排水の質 - 標準的排水基準別	モニタリングしなかった	<Not Applicable>	<Not Applicable>	排水について、標準的排水基準別の排水量は把握していません。
排水の質 - 水への排出(硝酸塩、リン酸塩、殺虫剤、その他の優先有害物質)	モニタリングしなかった	<Not Applicable>	<Not Applicable>	排水について、優先有害物質の排水量は把握していません。
排水の質 - 温度	モニタリングしなかった	<Not Applicable>	<Not Applicable>	排水について、温度は把握していません。
水消費量 - 総量	100%	毎月	水道水は第三者から購入しており、購入量については毎月、施設毎にメーターと購入伝票を確認している。地下水については、汲み上げ量を、施設毎の吸水量メーターを毎月、確認している。	
リサイクル水/再利用水	モニタリングしなかった	<Not Applicable>	<Not Applicable>	製造工程で洗浄水に随時使用しているが、使用量については確認ができない。
完全に管理された上下水道・衛生 (WASH) サービスを全従業員に提供	100%	常時	供給元が品質保証をしている上水を提供しており、モニターも供給元が定期的に行っている。	

W1.2b

(W1.2b) 貴社の事業全体で、取水、排水、消費した水の合計量、前報告年比、また今後予測される変化についてご記載ください。

	量(メガリットル/年)	前報告年との比較	前報告年との変化/無変化の主な理由	5年間の予測	将来予測の主な根拠	説明してください
総取水量	29.94	大幅に多い	事業活動の拡大/縮小	大幅に多い	事業活動の拡大/縮小	事業の拡大と、冷却が必要な設備が増加することから、
総排水量		選択してください	選択してください	選択してください	選択してください	
総消費量		選択してください	選択してください	選択してください	選択してください	

W1.2d

(W1.2d) 水ストレスのある地域から取水を行っていますか。また、その割合、前報告年比、今後予測される変化はどのようなものですか。

	取水は水ストレス下にある地域からのものです	水ストレス下にある地域からの取水の割合	前報告年との比較	前報告年との変化/無変化の主な理由	5年間の予測	将来予測の主な根拠	確認に使ったツール	説明してください
行1	いいえ	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	世界資源研究所(WRI)が発表したアキダクト(AQUEDUCT (水管、送水路))	今回の回答の対象が日本の拠点であり、水資源は十分に確保されている。

W1.2h

(W1.2h) 水源別の総取水量をお答えください。

	事業への関連性(relevance)	量(メガリットル/年)	前報告年との比較	前報告年との変化/無変化の主な理由	説明してください
淡水の地表水(雨水、湿地帯の水、河川、湖水を含む)	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	
汽水の地表水/海水	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	
地下水 - 再生可能	関連する	22.4	大幅に多い	事業活動の拡大/縮小	事業活動が拡大したことや新たな設備が地下水による冷却を行うようになったため大幅に増加した。
地下水 - 非再生可能	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	
随伴水/混入水	関連性がない	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	
第三者の水源	関連する	7.5	大幅に多い	事業活動の拡大/縮小	売上が53.69億から85.85億円に増加したため大幅に増加した。

W1.3

(W1.3) 貴社の総取水効率の数値を記入してください。

	売上	総取水量(メガリットル)	総取水効率	予測される将来の傾向
行1	8585000000	29.94	286740146.960588	

W1.4

(W1.4) 規制当局により有害と分類される物質を含んだ貴社製品はありますか。

	製品が有害物質を含む	コメント
行1	いいえ	

W1.5

(W1.5) 水関連問題に対し、貴社のバリューチェーンと協働していますか。

	エンゲージメント	協働していない主な理由	説明してください
サプライヤー	いいえ	重要ですが、差し迫った事業上の優先事項ではない	
その他のバリューチェーン・パートナー(例: 顧客)	いいえ	重要ですが、差し迫った事業上の優先事項ではない	

W2. 事業への影響

W2.1

(W2.1) 貴社は報告年内に、水関連で有害な影響を受けましたか。
いいえ

W2.2

(W2.2) 貴社は報告年に、水関連の規制違反を理由として罰金、法的命令、その他のペナルティを科されましたか。

	水関連規制に関する違反	罰金、執行命令またはその他の罰則	コメント
行1	いいえ	<Not Applicable>	

W3.手順

W3.1

(W3.1) 貴社では、事業活動に関連し、水の生態系や人間の健康に有害となりうる潜在的水質汚染物質を、どのように特定、分類していますか。

	潜在的水質汚染物質の特定と分類	潜在的水質汚染物質の特定・分類方法	説明してください
行1	いいえ、潜在的水質汚染物質を特定・分類していません	<Not Applicable>	

W3.3

(W3.3) あなたの組織では水関連のリスクの評価を実施していますか？
いいえ、水関連のリスクを評価していません

W3.3c

(W3.3c) 貴社が水関連のリスク評価を実施しないのはなぜですか。

	主な理由	説明してください
行1	今後2年以内にリスク評価プロセスを導入する予定です	

W4.リスクと機会

W4.1

(W4.1) 貴社ではこれまで、事業に財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性のある特有の水関連のリスクを特定したことがありますか。
はい、直接操業とバリューチェーンの他の段階の両方で

W4.1a

(W4.1a) あなたの組織では、事業に及ぶ財務または戦略面での重大な影響を、どのように定義していますか？

【財務的または戦略的での重大な影響の定義】

- (1) 当社の純資産額の30%を超える損害。
- (2) 当社の売上高が、直近の公表予想値と比較して10%以上の変動。
- (3) 当社の営業利益・経常利益・当期純利益が、直近の公表予想値と比較して30%以上の変動。

W4.1b

(W4.1b) あなたの組織の施設のうち、事業に財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性のある水関連リスクをもつ施設は、合計でいくつありますか？ またそれはあなたの組織の施設全体のどの程度の割合を占めますか？

	水リスクにさらされている施設の総数	これが相当する会社全体の施設の割合(%)	コメント
行1		選択してください	

W4.1c

(W4.1c) 河川流域別に、貴社の事業に重大な財務上または戦略上の影響を及ぼす可能性のある水関連のリスクにさらされている施設の数と割合はいくらですか。また、これらの施設に関連する、事業への潜在的影響とはどのようなものでしょうか。

W4.2

(W4.2) あなたの組織の直接操作において、事業に対し財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性があるとして特定されたリスクと、それへのあなたの組織の対応について、具体的にお答えください。

国/地域および河川流域

選択してください

リスクの種類と主なリスク要因

規制	その他、具体的にお答えください(環境汚染により、自治体からの操業停止等の処分を受けるリスク)
----	--

主要潜在的影響

罰金、違約金、または施行令

自社固有の内容の説明

不測の事態や事故などにより、製造工程で使用する切削液の流出や不適切な廃棄などが発生し、水資源に悪影響を与える場合が考えられますが、発生後に適切な処理を行ったかどうかなどが重要であり、過失があった場合、自治体から操業停止等の処分を受けるリスクがあります。

期間

6年以上先

潜在的影響の程度

中程度～低い

可能性

可能性が非常に低い

財務上の潜在的影響額をご回答いただくことは可能ですか？

はい、単一の推計値

財務上の潜在的影響額(通貨)

1000000

財務上の潜在的影響額 - 最小(通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最大(通貨)

<Not Applicable>

財務上の影響についての説明

切削液の河川の流出の場合、原因除去まで操業停止による損失と罰金の額より算出しました。

リスクへの主な対応

汚染対策と抑制策を向上

対応の詳細

対応の費用

600000

対応の費用についての説明

切削液の河川の流出前に、敷地内で流出を止めることができるように、緊急事態訓練を定期的に行っています。訓練参加者150名の訓練費用より算出しました。

W4.2a

(W4.2a) 貴社のバリューチェーン(直接操業を超える)において、事業に対し財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性がある特定されたリスクと、それへの貴社の対応について、具体的にお答えください。

国/地域および河川流域
選択してください

バリューチェーンの段階
サプライチェーン

リスクの種類と主なリスク要因

規制	その他、具体的にお答えください(環境汚染により、自治体からの操業停止等の処分をうけるリスク)
----	--

主要潜在的影響

罰金、違約金、または施行令

自社固有の内容の説明

サプライチェーンにおいても不測の事態や事故などにより、製造工程で使用する切削液の流出や不適切な廃棄などが発生し、水資源に悪影響を与える場合が考えられますが、発生後に適切な処理を行ったかどうかなどが重要であり、過失があった場合、自治体から操業停止等の処分を受けるリスクがあります。

期間

6年以上先

潜在的影響の程度

低い

可能性

可能性が並外れて低い

財務上の潜在的影響額をご回答いただくことは可能ですか?

いいえ、このデータはありません

財務上の潜在的影響額 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最小 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の潜在的影響額 - 最大 (通貨)

<Not Applicable>

財務上の影響についての説明

事業規模や影響範囲などにより財務面でのインパクトは異なることが予想され、その大きさを予め想定することは困難です。

リスクへの主な対応

下流	汚染対策と抑制策を向上
----	-------------

対応の詳細

サプライヤーへの説明会・教育により、啓蒙活動を行います。

対応の費用

100000

対応の費用についての説明

説明会のコストより算出

W4.3

(W4.3) あなたの組織ではこれまで、事業に財務または戦略面で重大な影響を及ぼす可能性のある水関連機会を特定したことがありますか?

はい、機会を特定したが、それを実現できない

W4.3b

(W4.3b) 貴社に水関連の機会はないと考えるのはなぜですか。

主な理由	説明してください
行1 機会が存在するが、事業に重大な財務的または戦略的な影響を及ぼす可能性のあるものはない	日本は、そもそも水資源が豊富な国であるため、水関連の機会はほとんど無いと認識しています。

W6.ガバナンス

W6.1

(W6.1) あなたの組織には水に関する企業方針がありますか？

いいえ、しかし今後2年以内に作成する予定です

W6.2

(W6.2) あなたの組織内では、水関連問題について取締役会レベルの監督が実施されていますか？

はい

W6.2a

(W6.2a) 取締役会における気候関連課題の責任者の職位を特定します(個人の名前は含めてはいけません)。

個人/委員会の職位	水関連問題に対する責任
取締役会レベルの委員会	取締役会は、気候関連課題を含むESG経営課題に関して監督するとともに、執行レベルにおいてESG経営に関するグループの戦略・方針・推進活動を策定し、その進捗を評価する機関として、取締役3名を含むESG委員会を設置し、水関連課題を含むESG経営推進の進捗を毎月、取締役会に報告をする。

W6.2b

(W6.2b) 水関連の問題に対する取締役会の監督に関する詳細を記入します。

	水関連の問題が予定された議題として取り上げられる頻度	水関連の問題が組み込まれているガバナンス構造	説明してください
行1	予定されている - 一部の会議	実施と実績のモニタリング	

W6.2d

(W6.2d) 貴社には、水関連問題に精通した能力を持った取締役が1人以上いますか。

取締役が水関連問題に関する能力を持っています	水関連問題に関する取締役の能力を評価するために使用される基準	取締役会レベルで水関連問題に関する能力がない主な理由	貴社に水関連問題に関する能力を持った取締役が1人以上いない理由と、将来取締役会レベルの能力向上に取り組む予定があるかについて説明してください
行1 いいえ、しかし今後2年以内に組み込む予定です	<Not Applicable>	重要だが、差し迫った優先事項ではない	当社の事業所がある日本国内は、水資源が豊富で、水関連問題は重大な課題では無い為、水関連問題に精通した能力を持った取締役を置いていませんでした。しかし、今後、グローバルでサステナビリティ経営を推進していくにあたり、水関連問題が重大なリスクと機会に繋がる地域も存在する為、今後、水関連問題に精通した取締役を置くことを検討します。

W6.3

(W6.3) 水関連の問題に責任を負う経営層レベルで最上位の職位または委員会を記入します(個人の名前は含めないでください)。

職位または委員会

その他の委員会、詳述してください (ESG委員会)

この職位における水関連の責任

水関連の企業目標に対する進捗状況のモニタリング

水関連問題に関して取締役会に報告する頻度

四半期に1回以上の頻度で

説明してください

毎月の水の使用量についてモニタリングされており、目標に対して大きく変化があった場合には取締役会で説明・報告をしています。

W6.4

(W6.4) 水関連の問題の管理に関して、経営幹部レベルまたは取締役にインセンティブを付与していますか？

	水関連の問題の管理に対してインセンティブを付与しています	コメント
行1	いいえ、今後2年以内に導入予定もない	

W6.5

(W6.5) あなたの組織では、以下のいずれかを通じて、水関連公共政策に直接的または間接的に影響を及ぼしうる活動に関与していますか？

いいえ

W6.6

(W6.6) 貴社は、水関連のリスクへの対応に関する情報を直近の財務報告書に含めましたか。
いいえ、しかし今後2年以内にそうする予定です

W7.事業戦略

W7.1

(W7.1) 貴社の長期的・戦略的事業計画のいずれかの側面に水関連問題が組み込まれていますか。もしそうであれば、どのように組み込まれていますか。

	水関連の問題は組み込まれていますか。	長期的な対象期間(年)	説明してください
長期的な事業目的	いいえ、水関連の問題のレビューをまだ行っていませんが、今後2年以内に実施予定です	<Not Applicable>	
長期的目標達成のための戦略	いいえ、水関連の問題のレビューをまだ行っていませんが、今後2年以内に実施予定です	<Not Applicable>	
財務計画	いいえ、水関連の問題のレビューをまだ行っていませんが、今後2年以内に実施予定です	<Not Applicable>	

W7.2

(W7.2) 報告年におけるあなたの組織の水関連の設備投資費(CAPEX)と操業費(OPEX)の傾向と、次報告年に予想される傾向をお答えください。

行1

水関連の設備投資費CAPEX(+/- %)

次報告年の設備投資費予想 (変化+/- %)

水関連のOPEX(+/-の変化率)

次報告年の操業費(OPEX)(変化 +/- %)

説明してください

W7.3

(W7.3) 貴社では、事業戦略を決定するためにシナリオ分析を用いていますか。

	シナリオ分析の使用	コメント
行1	いいえ、しかし、今後2年以内にそうすることを見込んでいます	

W7.4

(W7.4) 貴社では、社内ウォータープライシング (内部的価格付け) を実施していますか。

行1

貴社では、社内ウォータープライシング (内部的価格付け) を実施していますか。

いいえ、ですか現在ウォータープライシングの方法を調査中です

説明してください

W7.5

(W7.5) 貴社が現在製造や提供をしている製品やサービスの中で、水の影響を少なく抑えているものはありますか。

	水資源の影響が少ないと分類した製品および/またはサービス	水に対する影響が少ないと分類するために使用した定義	貴社の最新の製品および/またはサービスを水資源の影響が少ないと分類しない主な理由	説明してください
行1	いいえ、しかし今後2年以内に に取り組む予定です	<Not Applicable>	重要だが、差し迫った事業上の優先事項ではない	当社が主に製造している半導体製造装置のエッチング装置などの真空パーツでは真空状態で製造を行うため水を使用しませんが、その前後工程の洗浄工程では水を使用するので、今後洗浄工程に事業拡大をする可能性があります。

W8.目標

W8.1

(W8.1) 貴社には水関連の定量的目標がありますか。

いいえ、しかし今後2年以内に行う予定です

W8.1c

(W8.1c) 貴社に水関連の定量的目標がない理由と、今後策定する予定があるものがあればその内容をお答えください。

	主な理由	説明してください
行1	今後2年以内に定量的目標を導入する予定	現在は水使用量のモニタリングを進めており、今後2年以内に目標値を定め取組みを行って参ります。

W9.検証

W9.1

(W9.1) あなたの組織のCDP情報開示で報告したその他の水に関する情報(W5.1aで既に対象にされていない)を検証していますか？

いいえ、しかし今後2年以内の検証実施を積極的に検討中

W10.プラスチック

W10.1

(W10.1) 貴社は、バリューチェーンのどこでプラスチックが使用/生産されているかをマッピングしたことがありますか。

	プラスチックのマッピング	バリューチェーン上の段階	説明してください
行1	はい	サプライチェーン	当社の製品は金属製品であるため、プラスチックが使用されることはありませんが、製品の梱包材としてウレタン等のプラスチックが使用されています。

W10.2

(W10.2) 貴社のバリューチェーンにおいて、プラスチックの貴社の使用/生産が環境や人体に及ぼしうる潜在的影響について評価したことはありますか。

	影響評価	バリューチェーン上の段階	説明してください
行1	はい	サプライチェーン	梱包に使用するウレタン等のプラスチックは、再利用されずに廃棄されることがほとんどであり、環境への影響が大きいと考えています。

W10.3

(W10.3) バリューチェーンにおいて、貴社は金銭的または事業戦略面で重大な影響を及ぼす可能性のあるプラスチック関連リスクにさらされていますか。もしそうである場合、詳細をお答えください。

	リスクエクスポージャー	バリューチェーン上の段階	リスクの種類	説明してください
行1	はい	サプライチェーン	規制	化学物質について法規制があり、今後使用量の規制等で制限される可能性があります。

W10.4

(W10.4) 貴社にはプラスチック関連の定量的目標がありますか。ある場合は、どのような種類かをお答えください。

	定量的目標があるか	目標が適用されるエネルギー/電力の種類	目標指標	説明してください
行1	はい	廃棄物管理	その他、具体的にお答えください(生産高あたりの梱包材(プラスチック)使用量削減)	使用するプラスチックの梱包材を置き換えまたは量を減らすことで生産高あたりのプラスチック使用量を削減する目標があります。

W10.5

(W10.5) 貴社が次の活動に従事しているか否かをお答えください。

	活動の適用	コメント
プラスチックポリマーの生産	いいえ	
耐久性のあるプラスチック部品の生産	いいえ	
耐久性のあるプラスチック製品の生産/商品化(混合材料を含む)	いいえ	
プラスチックパッケージの生産/商品化	いいえ	
プラスチックパッケージを使用する製品の生産	いいえ	
プラスチックパッケージを使用するサービスや製品の提供/商品化(例：小売や食品サービス)	はい	

W10.8

(W10.8) 販売/使用したプラスチックパッケージの総重量とそれに含まれる原料を具体的にお答えください。

	報告年に販売/使用したプラスチックパッケージの総重量(メートルトン)	報告可能な各原料の内訳(%)	含まれるバージンの化石燃料ベースの割合	含まれるバージンの再生ベースの割合	含まれるポストインダストリアルリサイクル材料の割合	含まれるポストコンシューマーリサイクル材料の割合	説明してください
販売したプラスチックパッケージ	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>
使用したプラスチックパッケージ		選択してください	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	梱包用にプラスチックを使用していますが、分類分けができていないため、総重量が把握できておりません。

W10.8a

(W10.8a) 貴社が販売/使用したプラスチックパッケージの循環性についてお答えください。

	循環性として報告可能な割合	再利用可能なプラスチックパッケージの割合	技術的にリサイクル可能なプラスチックパッケージの割合	実際かつ大規模にリサイクル可能なプラスチックパッケージの割合	説明してください
販売したプラスチックパッケージ	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>
使用したプラスチックパッケージ	なし	<Not Applicable>	<Not Applicable>	<Not Applicable>	精密部品の梱包に使用していることから、不純物の混入を避けるため、再利用品の仕様は困難な状況です。

W11.最終承認

W-FI

(W-FI) 補足したい場合は、本欄にあなたの組織の回答に関連すると考えられる追加情報や背景事情を記入してください。この欄は任意で、採点されないことにご注意ください。

W11.1

(W11.1) 貴社のCDP水セキュリティ質問書に関する回答を最終承認した人物を具体的にお答えください。

	役職	職種
行1	技術生産本部開発部長	環境/サステナビリティ部長

回答を提出

どの言語で回答を提出しますか。

日本語

貴社回答がどのような形でCDPに扱われるべきかを確認してください

	私は、私の回答がすべての回答要請をする関係者と共有されることを理解しています	回答の利用許可
提出の選択肢を選んでください	はい	公開

[ウォーターアクションハブ]ウェブサイトのコンテンツをサポートするため、CDPがパシフィック・インスティテュートと連絡先情報を共有することに同意してください。

はい、CDPはメインユーザーの連絡先情報をPacific Instituteと共有することが可能です

以下をご確認ください

適用条件を読み、同意します